



小樽の鉄道遺産

～未来に守り伝える北海道最初の鉄道の歴史～



明治13年11月28日、小樽手宮—札幌間に、アメリカ人技師クロフォード指導のもと、待望の鉄道が開通。2年後、幌内炭鉱に到達し、石炭の搬出が開始された。港—鉄道結節のまち小樽は急速に発展し、北海道の開発を先導するまちに成長。石炭から石油に、港も日本海から太平洋に移ったが、北海道の発展を支えた鉄道遺産は、国の重要文化財、鉄道記念物にも指定され、野外展示の約50両の車両を含め、鉄道技術の発展を示す貴重な近代遺産として保存されている。また近年、線路跡に散策路を添わせ、各種イベントの会場としても親しまれている。